介護予防・機能訓練指導員認定講習会

近畿ブロックにて全国初の開催

日整保険部介護保険対策班　細野　昇

日本柔道整復師会主催の介護予防・機能訓練指導員認定講習会がスタートした＝写真。平成18年２月４日および２月５日の両日，社団法人大阪府柔道整復師会館を会場として開催された。今回は中国，四国，九州ブロックの会員と大阪府の会員を対象に開催され，約340名の参加者であった。

開会に先立ち萩原日整会長は，「平成12年の介護保険実施に伴い柔道整復師は機能訓練指導員として位置付けされたが一部の会員を除いて積極的に活動してこなかった。平成15年度より厚生労働省の『老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)』を受けて研究を続けてきた結果，日整独自の『個別機能訓練』の手法が確立されたことを受け，全国統一的な手法による講習会を実施する運びになった。今後大いに活用していただきたい」旨の挨拶があった。

また，今事業を推進する主体である日整常務理事，保険部長である鑪野大阪府柔道整復師会会長は，この事業に340名の会員が参加されたことへの感謝と，この事業を全国展開して行く意気込みを挨拶の中で述べた。

介護保険対策班のオリエンテーションに続いて，２時からは「21世紀における高齢者福祉の課題」と題し筑波大学名誉教授である芳賀脩光先生の講演が開始された。

〈スケジュール〉

第１日目

午後２:00～３:20　21世紀における高齢者福祉の課題　芳賀脩光名誉教授

午後３:30～４:20　国際生活機能分類　介護保険対策班

午後４:30～５:40　加齢に伴う身体のリスクマネージメント　芳賀脩光名誉教授

午後５:50～６:50　失禁・認知症について　介護保険対策班

午後６:50～７:20　総合ディスカッション

第２日目

午前10:00～11:30　高齢者身体能力テスト　芳賀脩光名誉教授

午前11:30～12:00　ディスカッション

午後１:00～２:00　個別機能訓練評価表　柔道整復師の介護予防手法　介護保険対策班

午後２:15～３:35　運動指導の実際　芳賀脩光名誉教授

午後３:45～４:00　総合ディスカッション

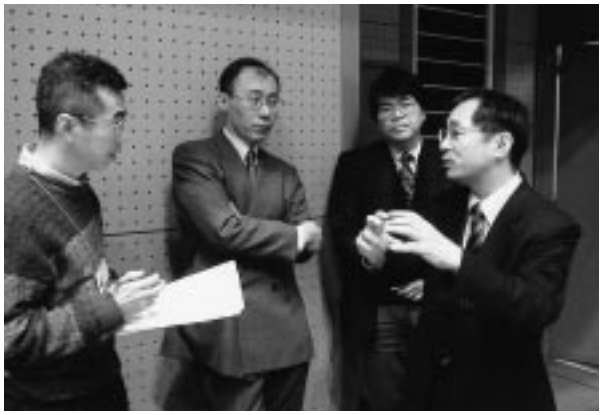
のように行われた。

芳賀名誉教授の講演も介護保険対策班の説明および講演も主にスライドを用いて行われたのであるが，会場は参加者が多数で，椅子席のみの設営となっていたため，多くの会員が不自然な姿勢でメモを取る姿が印象的であった。

柔道整復師ばかりではないが，同様な講演会では開会中にもかかわらず，かなりの人数が喫煙所の周辺で雑談を交わす姿を目にするものだが，２日間という長丁場にもかかわらずそのようなことを目にすることがなかった。

一方，講演で芳賀教授は，これからの介護予

▲講演する芳賀名誉教授



▲終了後，熱心に質問を受ける介護保険対策班員

防事業における柔道整復師の役割の重要性および可能性を強調された。また，活動を展開する上でのリスクについて十分説明され，リスク回避をする上で，利用者の示すサインを見逃さないことの重要性について丁寧に説明された。

さらに，高齢者の運動処方に当たっては，一般の常識とされていることに惑わされることなく実施することが重要で，「一万歩」「筋力アップ」といった言葉に惑わされてはならないと強調された。

特に，高齢者においては，個人個人の体力に合わせた処方が重要で，少ない量の運動処方でも十分な効果を得ることを示し，先生の提唱する「筋肉づくり」の考え方を示された。

対策班の説明では，ICF（国際生活機能分類）の概念をどのように活用するのかが説明された。

◀説明する三谷介護保険対策班員

ICF は WHO で近年導入された障害の分類手法で，かなり煩雑なものであるが，柔道整復師が高齢者福祉の分野に参入する場合には，他職種との共通理解に役立つ必要性からどうしても理解しなければならないものである。

また，「個別機能訓練評価表」および「個別機能訓練実施計画書」の記入法についての説明がなされた。今後，「新予防給付」または「地域支援事業」で高齢者に運動処方を行う場合には，処方の根拠が求められることになるが，この２つの帳票はこの根拠を示すものとして重要な位置を示す。

このような観点から，前記の個別機能訓練評価表，個別機能訓練実施計画書の使用に習熟することの重要性を対策班から説明された。帳票は記入の煩雑さを極力回避するよう工夫されたものであり，さらに，「個別機能訓練評価表」の内容から，必要な事項を「個別機能訓練実施計画表」に自動的に転載するコンピューターソフトも開発中であることが説明された。

今後さらに柔道整復師も介護チームの一員として活動することになるが，改正介護保険法で実施される「新予防給付」および「地域支援事業」の中に「認知症および失禁予防」が組み込まれているので，これに関する一般的な知識も必要とされる。

このような観点から「失禁・認知症について」との講演が行われた。再確認する上で大変有意義な講演であった。

すべてのスケジュールの終了後にディスカッションが行われ，質問と同時に日整や講習会に対する要望や意見が提出された。

最後に，挨拶に立った鑪野保険部長は「長時間にわたる講習会にもかかわらず，会員の先生方は一人も欠けることなく熱心に聴取されたことに頭が下がる思いです。今後とも積極的に継続的に活動をして参ります」と述べ閉幕となった。

世界の柔道整復師を目指して

学術部担当理事　尾藤　英邦

モンゴル国外務省・厚生省と会談

第２回モンゴル国訪問

平成17年11月21日から25日まで第２回目のモンゴル国訪問をした。今回の目的はモンゴル国の外務省，厚生省の方々と意見交換して日整としての具体的な方針を検討することであった。

以下，理事会に提出した報告書を紹介する。

◎訪問団

団長　阪本　武司
副団長　工藤　鉄男
尾藤　英邦
鳴原　清勝
小山　健
亀山　実
（東京都柔道接骨師会　学術部長）
コーディネーター
佐藤　紀子
（モンゴル国名誉領事）

◎訪問期間

平成17年11月21日～平成17年11月25日

11月22日

10：00　外務省アジア局長　フレルバータル氏と会談　(1)
11：00　国会議員　バッドエルデネ氏訪問
14：00　厚生次官（副大臣）　エンヘバト氏と会談　(2)
14：40　国立障害者リハビリ病院視察
障害治療センター長　ビャンバー氏等と会談
16：30　モンゴル伝統医療センター視察
Dr. ボルド氏と会談
19：00　厚生省関係者と夕食会
厚生次官（副大臣）　エンヘバト氏
厚生省小児医療部長
ソヨルゲレル氏　等

11月23日

10：00　国立第一病院訪問　副院長　ビャンバドルジ氏と会談
プレゼンテーション
12：30　国会議長　ニャムドルジ氏　訪問　(3)
（新聞，テレビの取材を受ける）
16：00　国立健康科学大学副総長　ナラントヤ氏と会談　(4)
国際関係担当者　エンヘトヤ氏と会談
大学付属病院内視察
18：00　オリンピック委員会主催の夕食会
モンゴルスポーツ振興局長　ナランバータル氏
ヘッドドクター　ナサンバト氏　等

11月24日

9：30　在モンゴル国大使館　当田達夫特命全権大使表敬訪問
10：30　オリンピック委員会会長　サグダスレン氏訪問
19：00　日本側招待宴
初代大統領　オチルバトご夫妻
外務省アジア局　フレルバータル氏
厚生省関係者
オリンピック委員会関係者　等

以下に談話の要約を紹介する

(1) モンゴル国外務省アジア局長　フレルバータル氏の談話

「モンゴル国は古い国であり，また若い国でもあります。今は人材育成の基礎作りの時です。医療制度もまだしっかりしていません。柔道セ

▲モンゴル国外務省アジア局長（右）と会談する阪本団長

ラピーはいろいろな面で役に立つと思います。文化には民族性があります。国対国や，市民レベルで相互理解をして，総合的なパートナーシップを図ることが大事です。交流しながらバランスのとれた制度を考えていくことが効果的であると思います。

子供，老人，スポーツ現場での治療や教育に幅広く活動できる財団を作るということは如何でしょう。ご意見を頂き，決まりましたら，私が外務省を代表して協力します。」

⑵ モンゴル国厚生省副大臣 エンヘバト氏の談話

「厚生省はスポーツも担当しています。各競技で外国と関係を持っています。厚生省の管轄下には国立健康科学大学やオリンピック委員会などがあります。柔道だけでなく治療を含めて幅広い関係ができ感謝しています。モンゴル国にとって交流は良いことです。

私は大阪外国語大学と高知医科大学へ留学しました。柔道と相撲に興味があります。高知の明徳義塾高校に朝青龍関と朝赤龍関を紹介しました。東京に行く度にモンゴル力士と会っています。」

⑶ 国会議長ニャムドルジ氏を表敬訪問した際のモンゴル国の新聞記事（11月24日付）を紹介する。

《2008年北京オリンピック出場選手強化に日本が協力する》

モンゴル国を訪れている日本柔道整復師会阪本副会長，東京都柔道接骨師会工藤会長がＳ・ニャムドルジモンゴル国国会議長を表敬訪問した。

柔道整復師はWHOに登録されており，日本国内外において活動を行い，医療保険も適用される公的な伝統治療を行っている。

今回の訪問目的は柔道整復をモンゴルで普及させるための調査であった。モンゴル国は相撲大国であるにもかかわらず良い指導者やコーチ，科学的な練習，練習に必要な施設，経済などのより良い環境が整っていないがために良い成績が残せないのが現状です。しかし，我々はこのような問題を解決するために努力しております。モンゴル人は個々の能力を全てが出せれば頂点に立つことができることは日本相撲界で活躍するモンゴル力士たちが証明しております。

日本の皆様と力を合わせていけば，我が国の柔道が今以上のレベルアップに繋がることを期待しているとニャムドルジ国会議長が語った。

阪本副会長，工藤都柔接会長らが2008年北京オリンピックに出場する候補選手を全面的にバックアップすると述べました。両者は将来の具体的な計画，素案を締結していく必要があると合意に達しました。（訳のまま）

⑷ 国立健康科学大学副総長 ナラントヤ氏の談話

「この大学は1942年に創立され，12800名を超える卒業生を輩出しています。７学部で専門教育をしています。今後はスポーツ医学の研究が必要であると思います。学内で柔道セラピーを教えて頂くための話し合いを継続し，また，地方の医師の卒後教育についても協力して頂きたいと思います。現在，建築中の施設がありますので，そこで柔道セラピーを受け入れることは可能です。」

⑸ 国立健康科学大学バイオ医学部長の談話

「前回，東京都柔道接骨師会から来て頂き，講義を受けました。その後，学生に調査した結果，３名が柔道整復師になりたいと言っています。もっと増える可能性があります。これからも教育システムを作り，定期的に講義をお願いしたいと思います。」

⑹ 初代大統領 オチルバド氏の談話

「モンゴル国は古くからの伝統があります。

その１つがモンゴル相撲です。また，国民は北京オリンピックでの金メダリストの誕生を願っています。相撲や柔道に優れた選手が大勢いますが，負傷やその再発を恐れています。モンゴルの伝統的な治療法と柔道セラピーの技術を合わせれば選手達の大きな支援になります。

モンゴル国で良い人材を募集し教育して，優れた能力を持った人の誕生を願います。」

ここで今までのモンゴル国での活動を時系列で述べる。

＊　６年前から毎年，大阪府の会員10名程がボランティアでモンゴル国にて治療活動をしている。このことは現地メディアに大きく取り上げられた。

＊　平成16年８月13日～17日

モンゴル国名誉領事佐藤紀子氏の紹介により日整として第１回目の訪問をした。訪問団は当時の山崎晃副会長，阪本武司学術部長，尾藤英邦学術部理事，学術部部員３名，広報部部員１名。モンゴル国厚生省官僚と意見交換をし，今後の対応の基礎を固めた。

＊　平成16年10月８日～11日

日整の招聘でモンゴル国厚生省小児医療部長・ソヨルゲレル氏と厚生省医師・ジーナ氏が訪日された。第７回日整学術実技研修会，第12回日整生涯学習講習会で挨拶を頂き，また，第13回日整全国少年柔道大会にも来賓として出席された。

＊　平成17年３月18日～20日

東京都柔道接骨師会がモンゴル国体育協会，オリンピック委員会，朝青龍財団からの招聘で当時の山口綱孝会長，橋本昇総務部長，亀山実学術部員を派遣した。日本での４年間にわたる朝青龍関などへの治療実績を朝青龍関がモンゴル国のオリンピック委員会に紹介したことによる。

▲初代大統領（左）と工藤副団長

＊　平成17年６月13日～18日

東京都柔道接骨師会がモンゴル国立健康科学大学の要請により，日本モンゴル友好スポーツ医学シンポジウムに参加し，モンゴル国立健康科学大学スポーツ医学課程の学生に柔道セラピーについての講義をした。

＊　平成17年７月11日～12日

モンゴル革命を記念して国を挙げて開催されるスポーツの祭典〈ナーダム祭〉に東京都，神奈川県，埼玉県の会員５名が救護員として参加した。このことは第14回日本柔道整復接骨医学会にて「モンゴル相撲の障害について―ナーダム祭参加による実態調査―」と題して久米信好会員が発表した。また亀山実会員が３回にわたるモンゴル国訪問について「国際交流シンポジウム―モンゴル国の活動報告と展望―」というテーマで報告した。

◀国立障害者リハビリ病院視察

◀国立第一病院にてプレゼンテーション

協定書締結なる
第３回モンゴル国訪問

平成18年１月23日から30日まで第３回目のモンゴル国訪問をした。今回の目的はモンゴル国オリンピック協会，体育協会，モンゴル国立健康科学大学と国際交流協定の調印をすることであった。以下，理事会に提出した報告書を紹介する。

◎訪問団

団長　工藤　鉄男
　　尾藤　英邦
　　西村　政重
　　亀山　　実（東京都柔道接骨師会）
　　田澤　裕二（神奈川県柔道整復師会）

◎訪問期間

平成18年１月23日～平成18年１月30日

１月24日

02：30　モンゴル国オリンピック委員会のナサンバド医師との打ち合わせ終了

10：00　モンゴル国オリンピック委員会と国際交流協定の調印
（新聞，テレビで報道される）
その後，朝青龍財団を訪問（スミヤバザル氏，ブルーウルフ氏）

14：00　モンゴル国立健康科学大学との調印式の準備

15：00　モンゴル国体育協会と国際交流協定の調印
（新聞，テレビで報道される）

１月25日

10：00　モンゴル国立健康科学大学にて卒後研修所所長と協議

12：00　モンゴル国立健康科学大学スポーツ医学教授と協議

１月26日

モンゴル国オリンピック委員会，モンゴル国体育協会と今後の活動について協議

▲モンゴル国立健康科学大学総長（左）との調印式

１月27日

午前　厚生省で厚生次官エンヘバト氏に挨拶，経過報告をする

午後　モンゴル国立健康科学大学との調印式の最終打ち合わせ

１月28日

10：00　モンゴル国立健康科学大学国際交流協定調印式　(1)　(2)

15：00　在モンゴル大使館　市橋康吉特命全権大使表敬訪問

18：00　日本側招待宴
モンゴル国立健康科学大学総長
モンゴル国立健康科学大学国際関係担当者
体育協会会長　他３名
オリンピック委員会会長　他１名
朝青龍財団　２名

調印後，モンゴル国立健康科大学にて▶

▲在モンゴル大使館 市橋大使(左から３人目)を表敬訪問

現地 NGO 法人　２名

20：30　外務省アジア局長フレルバータル氏に挨拶

モンゴル・日本関係促進協会会長ドゥマーギーン・ソドノム氏に挨拶

１月29日

チャガンサル（旧正月）相撲大会　モンゴル相撲国技館

（亀山，田澤会員１月24日～26日トレーナー活動）

⑴ モンゴル国立健康科学大学総長 ルカグヴァスレン氏の挨拶(要約)

「調印式にご列席の皆様，今日は。この大学の卒業生のナサンバト先生と朝青龍財団を通じて，日本柔道整復師会とモンゴル国立健康科学大学との交流が始まったと思います。

昨年６月にこの大学でシンポジウムが開催され，そのセミナーで亀山先生と久米先生の講義がありました。講義を受けたスポーツ医学専攻の学生や関係者が深い感銘を受け，そのことが今日に繋がっています。

昨年11月に訪問された阪本団長，工藤副団長と調印についての合意があり，その結果，今日を迎えました。私の希望はスポーツ医学部門で人材育成，教育を共同で確立することです。

今回の調印式のために工藤先生はじめ皆様に来て頂き，モンゴル国立健康科学大学を代表して，心からお礼を申し上げます。」

▲大統領迎賓館前にて

⑵ 工藤鉄男訪問団団長の挨拶(要約)

「モンゴル建国800年に当たる素晴らしい年にモンゴルを訪問し，日本柔道整復師会を代表して感謝の言葉を述べたいと思います。

〈井戸の水を飲む人は井戸を掘った人のことを忘れてはならない〉という古いことわざがあります。そもそもこの交流の話を最初に頂いたのは朝青龍財団とナサンバト先生であります。両国のスポーツ分野，メディカル分野でこの人達のことは忘れてはなりません。

両国の知的財産の交流がモンゴル国のスポーツ分野，福祉・健康分野，そしてモンゴルの子供達の育成に大きく貢献できることと確信しています。この事業はビジネスではありません。日本の外務省も支援して頂くことになっています。今後，ますますこの交流を深めて双方が発展することを祈念いたします。

本日は総長はじめ関係各位の先生方に感謝申し上げます。」

国際交流の重要性は10年前より各方面から言われていた。今，日整は「世界の柔道整復師」を目指す事業を展開している。柔道整復師の技術を世界の多くの人に提供し，認知してもらいたいと願っている。そのためにもこの訪問は日整にとって大変有意義だったと思う。